

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名:社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院人間ドック健診センター

受審施設の概要

牧田総合病院人間ドック健診センター（以下センター）は、1959年に大田区大森において人間ドックを開始した後、2012年に現在の大田区蒲田に移転、牧田総合病院蒲田分院に隣接する病院併設の健診施設である。センターは、JR蒲田駅から徒歩10分程の閑静な住宅地にあり、病院から独立した施設内は明るく清潔感があり、優しい色合いで統一されたレディースコーナーなどプライバシーにも配慮された空間が確保されている。

年間の受診者数は、一日ドック約16,000人、二日ドック約240人、その他の健診が約17,400人、さらに検診車による巡回検診を約23,700人実施している。2004年に初回の認定を受け、今回が3回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

病院とは別にドック健診センターの理念と基本方針が定められ、見直しの際には、業務改善委員会にて検討する仕組みがある。次年度には新築病院への移転が計画されており、これに合わせて見直す予定があるとのこと。個人情報保護に向けては、個人情報保護法方針が明文化され、利用目的も明示されている。法人として実施される研修には、主に新人や中途の採用者を対象とした研修が計画されていた。

就業規則等各種規程は、法人で体系的に一括管理されている。職業倫理についても就業規則内で明文化されており、違反行為に関する相談窓口は、2017年に設置された「職員健康管理室」が担っている。同室では、健康診断、ストレスチェック、超過勤務者への積極的な介入もされており、高く評価できる。また、院内保育室の設置等、労務・職場環境は適切に確保され、安全衛生管理体制は極めて高く評価できる。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等は、職員の意見を基に策定されており、今期は、受診者数の増加、健診システムの常軌化による効率化等を目指し、各部門の「目標設定シート」や「業務評価表」などを活用して目標達成に向けて取り組んでいる。月次報告や年次事業報告については、センター会議等にて検討・報告がされるなど健全経営に努力している。

職員の体制は、現在、人間ドック認定医は常勤2名、健診専門医および指導医の常勤は各2名の体制である。健診部門の組織図は2018年4月1日付けで作成され、「組織規程」「権限規程」等についても定期的な見直しがされている。医師はじめスタッフの増員が積極的に行われるなど受診者のニーズに沿った取り組みは評価される。

教育体制については、年間計画に基づき研修が行われている。医療法で定める安全、感染などの研修会については、欠席者へはフォローアップビデオ等を用いて周知し、研修や振り返りのテストを実施することでより理解を促している。また、健診部門独自のピンクリボンアドバイザーの資格取得など高く評価したい。一方で、医師に対する教育計画は作成されておらず、医師個人の資格取得や維持などに限定されているため今後のさらなる充実が期待される。

医療安全管理体制については、法人全体で委員会が設置されマニュアルも整備されている。インシデントの事例報告や再発防止のための分析はされているが、取られた再発防止対策の有効性の検証までには至っていないため、今後の工夫が期待される。

感染管理については、法人全体で委員会やマニュアルが整備されており、アウトブレイク

への対応や感染性廃棄物管理はおおむね適切である。速乾性手指消毒の期限管理や使用量の把握及び呼吸機能検査室における医療機器の消毒方法などの手順の再徹底をお願いしたい。

情報の管理体制は、サーバー室への入退室管理やパスワードによる健診システムへのアクセス制限、トラブル発生時のマニュアル整備もなされており適切である。事務室の契約書関連の盗難防止対策については施錠管理等、検討されたい。委託業務については、法人全体で適切に管理されているが、センターに関わる委託業務についての契約書等は、コピーあるいはイントラネットですべても閲覧できるような体制であることが望まれる。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、全館がバリアフリー化され、車いすでの移動も容易である。障害を持つ方への対応マニュアルも整備されるなど適切である。外国人受診者については、「受付マニュアル」が作成されており、対象とする契約先事業所があることから、必要時には通訳を雇用する方法が取られている。今後は、通訳に関するリスク（誤訳や通訳者のプライバシー保護など倫理的問題含め）責任の所在やリスク軽減などについても継続的に検討されたい。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付および収納・会計業務は、センターと大森の健診プラザの兼務である事務部により、マニュアルに則って実施されている。また、蒲田分院の管理課と本院財務部で最終処理が行われ、月次統計や実績報告などはセンター内の運営会議や法人経営会議にて報告・審議される仕組みである。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は全て実施されている。

受診環境は、人間ドック、生活習慣病健診に特化した施設で、受付時間を細分化し、滞在時間の短縮化が図られている。レディースデイの設置はないが、マンモグラフィ、婦人科健診、上部消化管 X 線検査、心電図検査はレディースコーナーで受診できる体制がある。計測コーナー、採血コーナー以外は全て個室になっている。検尿室に行く際の採血コーナー横を通る動線については工夫を期待したい。なお、受付以外に1階、2階の両サイドに誘導係が配置した工夫がなされている。

受診に関する事前の情報提供は、事前送付資料に服薬の注意事項や検査における禁忌事項のリーフレットがあり、分かりやすく説明されている。一方、2017年1月から開始された新規オプションについての事前配布資料や、ホームページの情報がやや不足しており、改善を期待したい。種々検査の問い合わせには看護師が対応し、記録が残されている。前回の受診情報をパソコン、順路ファイル内に保存し、職員が受診者情報を共有、質の高い健診に寄与している。BLS 訓練は、直近では、2015年に実施されている。上部消化管内視鏡検査は事前に説明書が配布され、署名による同意を得ている。

精度管理体制は、内部精度管理はマニュアルに沿って日々実施・記録がされており、外部精度管理サーベイにも参加し、良好な成績をおさめている。内視鏡は施設単独での日本消化器内視鏡学会指導施設に認定されている。

検査結果の判定は、日本人間ドック学会の判定基準に準拠している。健診システム変更時に、基準値・判定値の再確認が行われている。次年度病院移転に伴い、健診センターの移動、再度健診システムの入替の検討がされている。画像の判定については、放射線科医による二重読影、判定、データ入力が行われ評価できる。センター医局会では、随時症例検討が行われ、判定の見直しの検討がなされ、評価できる。

医師による結果説明は、2017年4月より結果説明が画像検査も含め、午前中に終了するように体制が変更され、以前より結果説明受診率が10%ほど向上し62.2%となった。今後も継続的な取り組みとさらなる実施率向上を期待したい。

保健指導体制は、人間ドックアドバイザー認定を取得した保健師3名が在籍し、医師結果

説明後、各種保健指導を行っているが、指導場所の確保が十分でないため実施率は1.0%と低率である。来年度保健指導室増室予定にはなっており、改善が期待される。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、ご意見箱が投書しやすい場所に2か所設置されている。1枚の用紙でご意見とともにアンケートが記載され、回収率は34%である。検査待ち時間の改善要望に対しては、時間差受付の開始、結果説明時間を午前に変更、また上部消化管 X 線検査室や超音波検査室の増室など、改善を図っている。更に内視鏡検査室の増設も予定しており、各検査の待ち時間の解消に努めている点は評価できる。

フォローアップについては、マニュアルが整備され、担当者3名にて精密検査項目の予約や、医師への紹介状作成依頼、返信情報の管理等を行っている。要精検率は概ね10%以下で適切である。一方、精検受診率については、胸部 X 線、マンモグラフィ、腹部超音波が前回受審時に比べ、低下していたが、今回の受審を機に再度フォローアップ体制の強化がなされ、受診率向上に繋がった。今後も継続的な取り組みをお願いするとともに、次年度の病院移転に伴い、さらなる病院との連携体制の強化が期待される。健診結果の分析、検討体制については、日本人間ドック学会へは9年連続で発表を行い、ホームページにも活動報告が掲載されている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、結果報告書の見直しがされ、各検査結果に説明を明示するとともに、イラストを上手に活用する等、受診者にとってわかりやすい工夫がされたことは評価できる。さらに、レディースコーナーにて乳がんの自己触診のビデオを放映、模型も設置して理解を深めるなどの教育啓発も行っているほか、16回目を迎える2日間に渡る院内学会では、一般公開もされるなど積極的な情報提供が見受けられ高く評価できる。

健康経営にむけた取り組みとしては、健診センターと健診プラザで構成される渉外部による地域、保険者、契約事業所などの実態や要望を把握・検討・対応する体制がとられている。

業務改善については、センター内に業務改善委員会が設置されており検討されている。改善例としては、QRコードを読み込む受付システムを採用し、誤認防止や待ち時間の軽減、スムーズな誘導などに成果を発揮する等があげられる。

総括

人間ドック健診の質を向上、充実にむけて、内視鏡室や超音波室の拡充や人員体制の整備等随所に積極的な取り組みが見受けられた。人間ドック健診施設としての方向性についても、最新の情勢にあわせて法人全体での組織体制の見直しが行われ、その方針が職員にも浸透し体现できているなど、改善に向けた仕組みが構築されている。一方で、医師による結果説明の更なる向上と保健指導に関しても一層の充実が望まれる。今回の審査を機会に貴施設が更なる発展を遂げられることを期待する。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定更新に値すると判断する。

審査日 2020年1月9日

認定承認日 2020年1月10日